

## 市長訓示

平成27年4月27日（月）  
本庁舎8階大会議室A

引き続き市政を担わせていただくことになりました。皆さんには、津市の幹部としてこれまでも十分力を尽くしていただいておりますが、今後ますます協力いただき、市民のための仕事を一緒になって進めてまいりたいと思いますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、選挙運動用政策ビラに書いてあること、これをぜひ実現していきたいと思っておりますが、これらは、普段の予算や政策を決めるときのように、皆さんと十分議論して書いたわけではない、再選に挑む候補者として書いたものです。ですから、皆さんからの反論なり、「こういうことが考えられる」「こういうことが起こりうる」という話は出てくると思います。ですから、これらをいつまでに実現するかというようなことは、皆さんと十分に議論し、その上で順次実行していきたいと思っております。

ただし、最低限のことは考えてあります。例えば、中学生までの医療費無料化については、最初は窓口無料化を書こうと思ったのですが、調べたところ、10数億の費用が必要になる、ということが

議会でも出ていたと思います。この費用に対し、市民のメリットとしては、窓口で払わなくていいということだけで、行政のコストとして10数億を投じて、市民の皆様が窓口で払わなくていい状態にするのがいいのか、それとも、中学生までの通院費無料化に費用を投じるのがいいかという比較衡量を行いました。中学生までの医療費無料化にかかる追加経費は、津市の場合約1億円です。県が補助を決定した場合、そのうち半分の約5千万円は県の負担になるということです。1億円か10数億円かという選択の中で、1億円は、今までご負担いただいていた中学生の通院の医療費が無料になるわけですから、確実に市民にとってプラスになるはずです。そういう検討をした上で、窓口無料化を選ばず、中学生の医療費無料化を選んだわけでありますので、意のあるところを汲み取っていただきたいと思います。

2歳までの子供について、育児休業時に保育所から退所させないという政策も書きました。これも、議論としては変な公約だという説明をいつもしておりました。普通は「～します」と書くのが公約ですが、「～しません」と書くのは普通ではありません。これも、よくよく調べてみると、3歳以上では柔軟な対応をしているわけです。

2歳以下に対して柔軟な対応をしていないのは、それほど説得力のある理由はありません。もちろん、いろいろな理由があります。例えば、2歳までは定員がきついとかが、あるいは、普通は上の子供も一緒に家庭で見るだろう、など。しかし、津市民の多くの皆さんからお届けいただく声を4年間聞き続けてきて、市長の権限でなんとかなるだろうと考えて盛り込みました。

防災情報戸別受信装置の配布も同様です。これも、今までいろいろと検討し、やることはすべてやって、それでも聞こえないところがあるということについて、踏み込んでいこうとしたものですから、皆さんがやってきたことが否定されたわけではなく、これまで積み上げてきた中で、やはりどうしても防災無線が聞こえないところがあるということに対してなんとかするのが市政であると考えて書いたものです。

エアコンの設置もそうです。例えば、人口が30万以上の県庁所在地で財政力もある都市においては、小中学校へエアコンを設置していこうという動きがある状況ですから、私が公約の中に入れなければ、同様の都市の中で後れを取ってしまうだろうという危機感もありました。しかし、もう少し積極的に言うならば、県庁所在地の

都市であり、子供たちの教育や学力向上を目指す以上、子供たちに快適な教育環境を提供したいということも考えて盛り込みました。

従って、前葉泰幸政策集で掲げたことは、皆さんと議論をまだしていないけれども、一定の考えまでは整理をしてあるものですから、ここから先はぜひ皆さんと議論をして、より良いやり方、そしてどういうタイミングでどういう形でやればいいのかということをお教えいただきながら進めていきたいと思っております。

市民の日常の望みをかなえていく、それが基礎自治体の使命であります。4年前に初めて当選したときに、市民の生活・暮らしに関わることのほとんどすべてが基礎自治体で行われていて、基礎自治体の仕事の90%以上は市民と接する窓口を持っている仕事であると申しました。従って我々の仕事・使命は、日々そういうことにしっかりと取り組んでいく、市民の皆さんの思いを、行政サービスへのニーズを受け止めて実際に実行していくことだということは常々申しておりました。

そういうことの積み重ねが、風格ある県都津市につながるであろうし、即答・即応し実現する市役所になればそういうことになるだろうと4年間ずっと申してまいりました。その上で、今回、合併し

て良かったと思えるところまで行きたい。これは、志としては高いと思います。4年前の志が、「合併しても良いことがなかった」「合併しない方が良かった」という声を無くそう、というものでしたので、それが「やはり合併して良かった」「合併を選択したのが正しかった」と思えるようなまちにするというのが我々の新たな目標になりました。大変ですが、ひとつひとつやることは、普段の市民の思い、望みに対してお答えしていくこと、これがすべてだと思います。

昔、「わらべ」というグループがありました。「めだかの兄弟」を歌っていたので覚えていると思いますが、そのメンバーの名前は「のぞみ」「かなえ」「たまえ」と言いました。市民は「のぞみ」をたくさん持っています。選挙で選ばれた市長は市役所にそういう望みをかなえてほしいという「たまえ」です。そして、「かなえ」がみなさんです。叶えていくのが市役所の仕事です。「のぞみ」「かなえ」「たまえ」が津市役所のこれまでの使命でしたし、これからもそのような市役所を目指す、そして合併して良かったと思っていただけのようなまちづくりを進める、これが私が選挙から戻ってきて改めて皆さんにお願いすることです。ぜひ一緒になってがんばりましょう。どうぞよろしく申し上げます。